

弘化回
未新招

笑教作
學園函

甘泉堂



恩
雲
集
禪

卷之三



真泉齋



七編

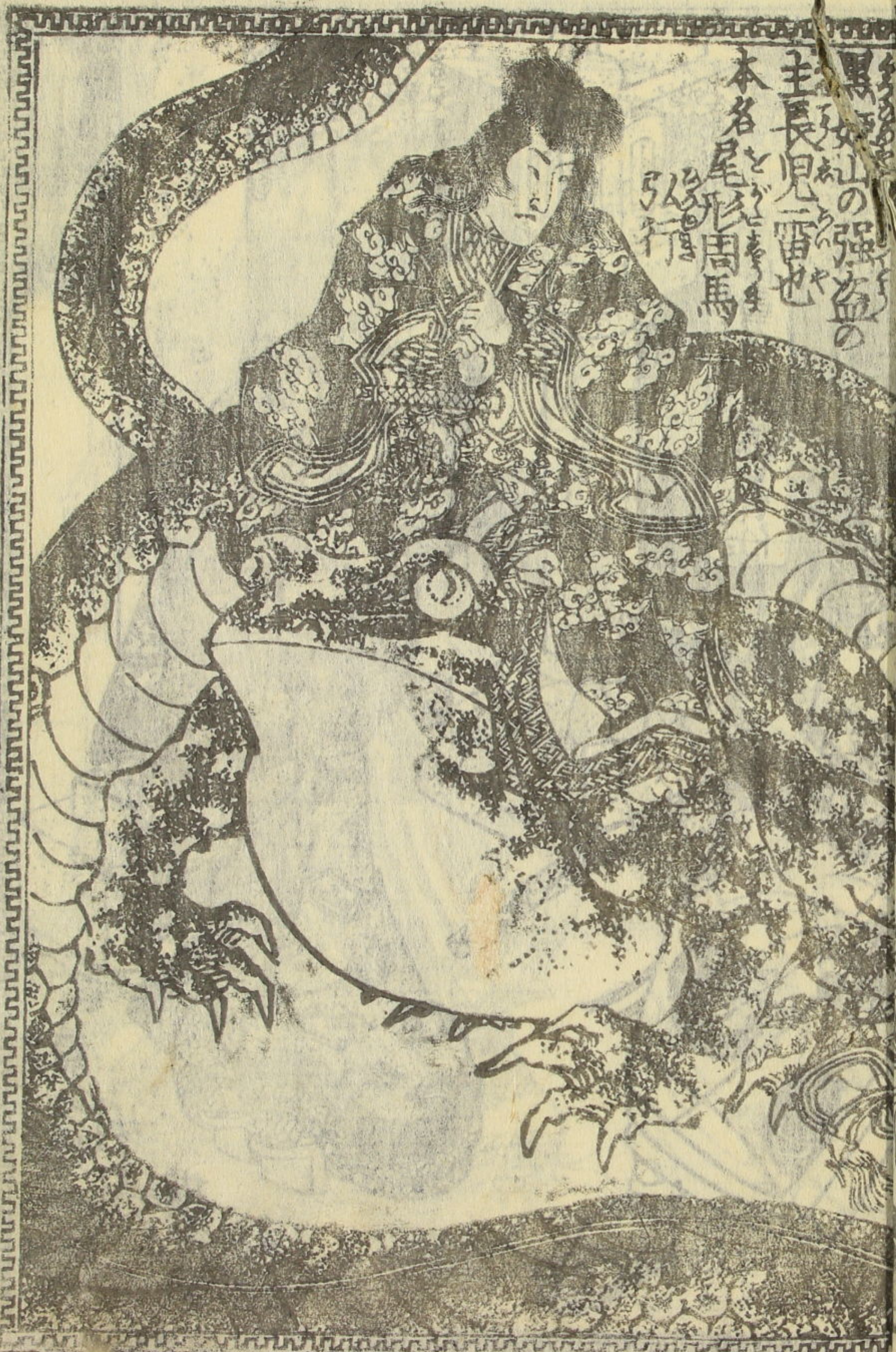
^13
3877
4





児雷也其家傑譚

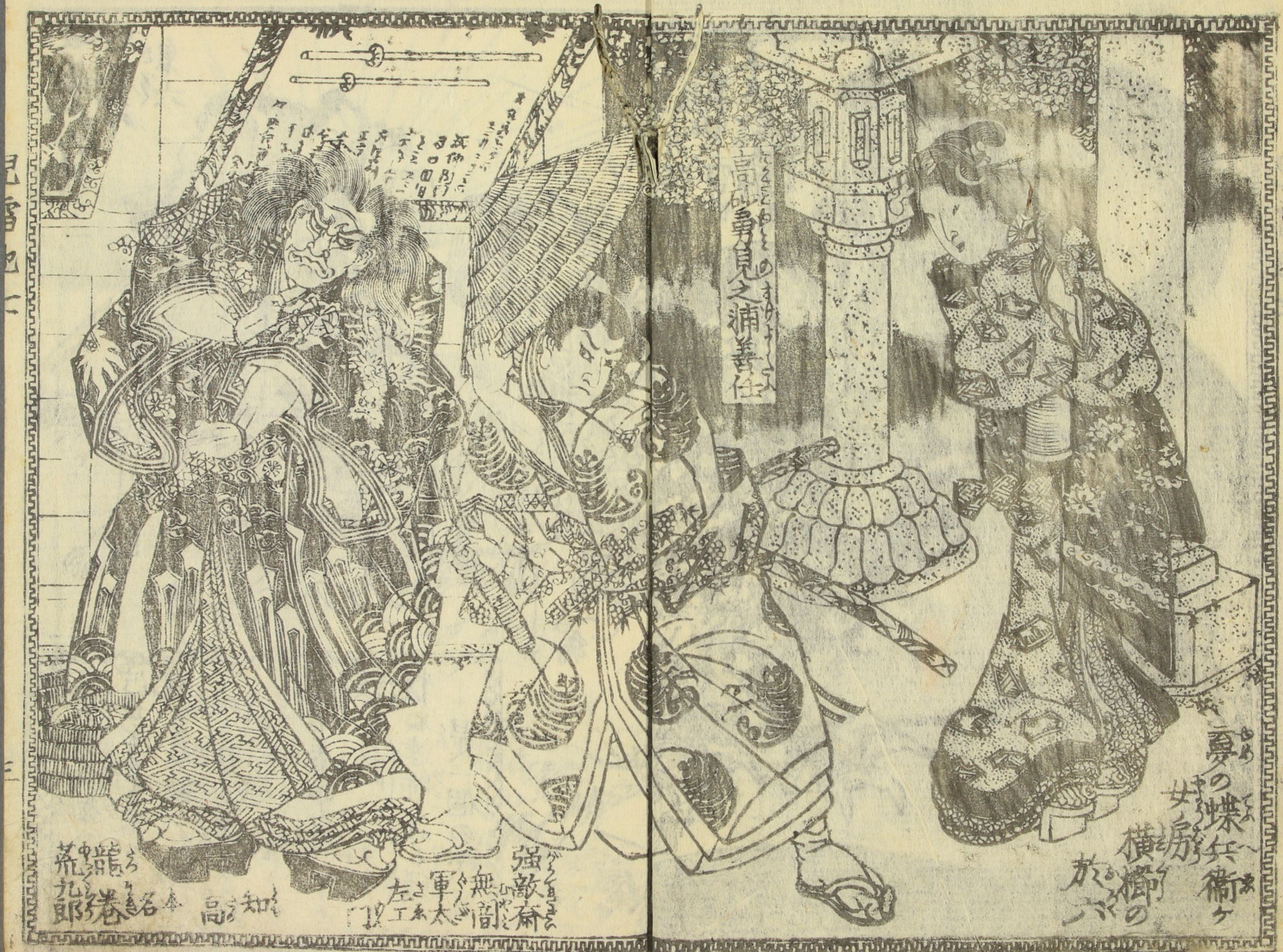
+



黒龍の強者の
主長見雷也
本名尾形周馬
弘行



更科家の
息女
田原姫



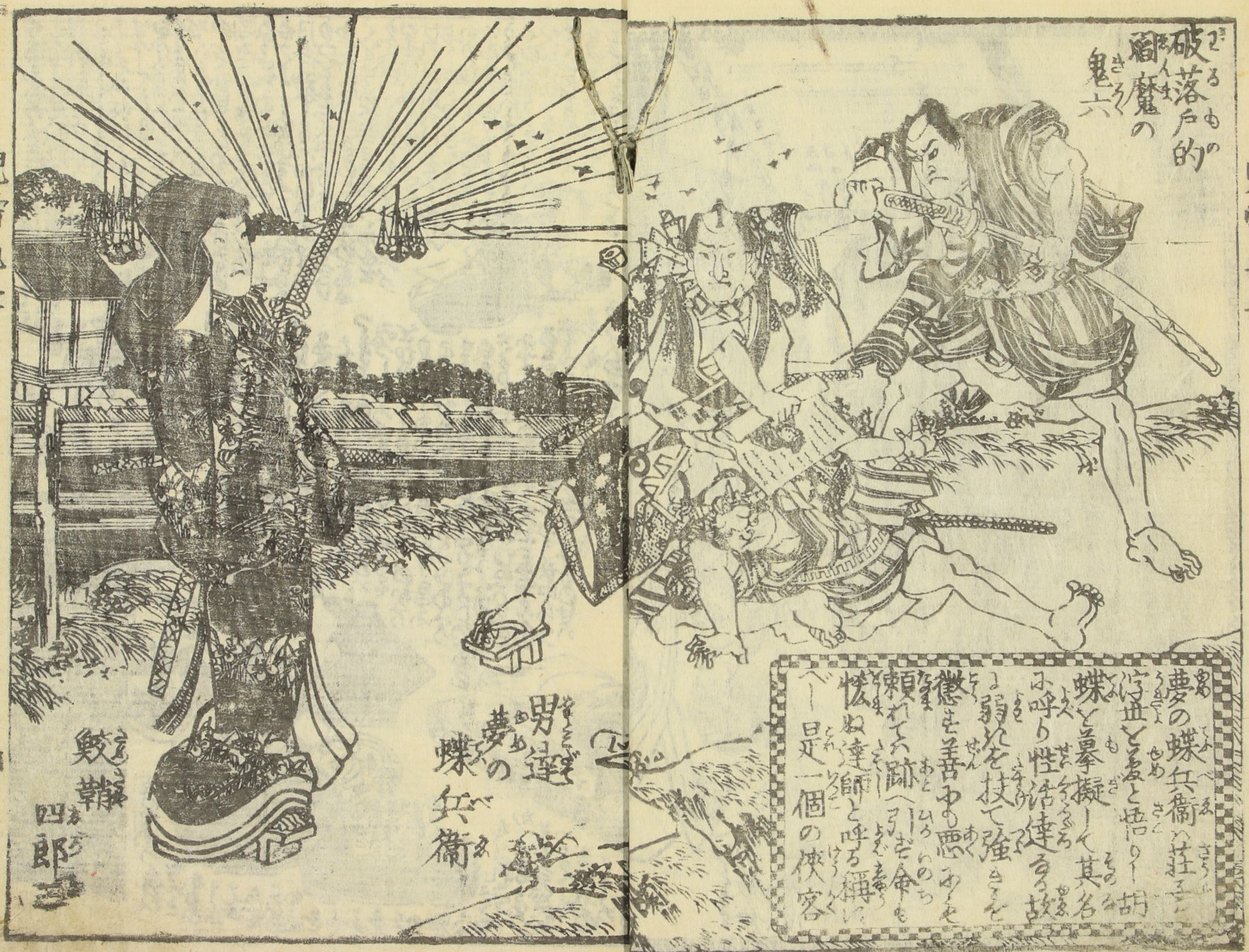
11 57 11

荒中
九郎卷
高知

強敵
無敵
左軍
工本

高知勇見之浦善任

夏の蝶
女房
横櫛
於六



破るもの
 魔の
 鬼六

鬼六

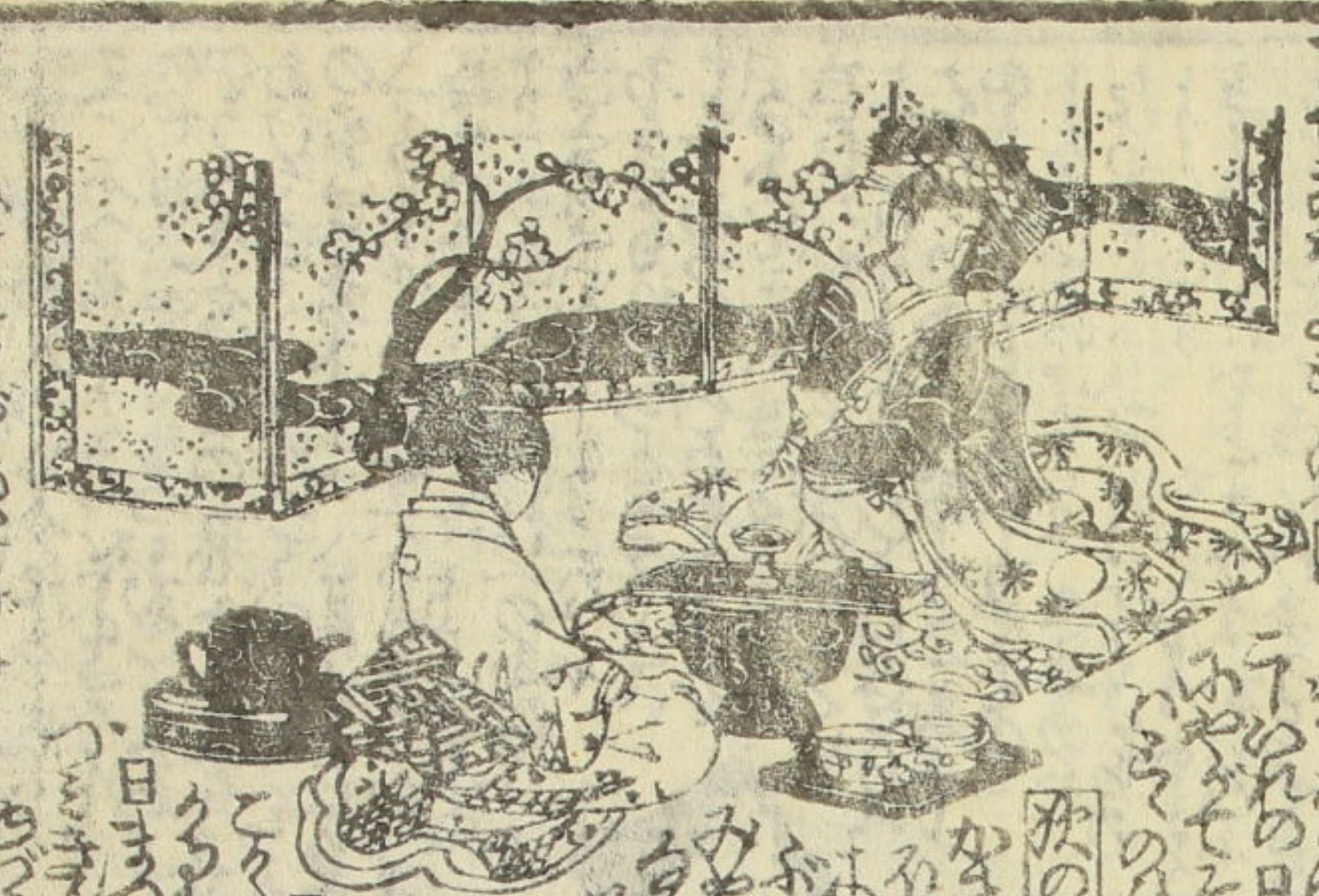
鮫
 靴

四
 郎

男
 達
 蝶
 兵
 衛

夢の蝶兵衛の狂言
 蝶と暴擬しく其名
 小呼り性活達る故
 弱れを技で強さを
 懲さ善者の悪あや
 頼れて六跡(引き命も
 懐ぬ達師と呼ぶ稱
 一是一個の俠客

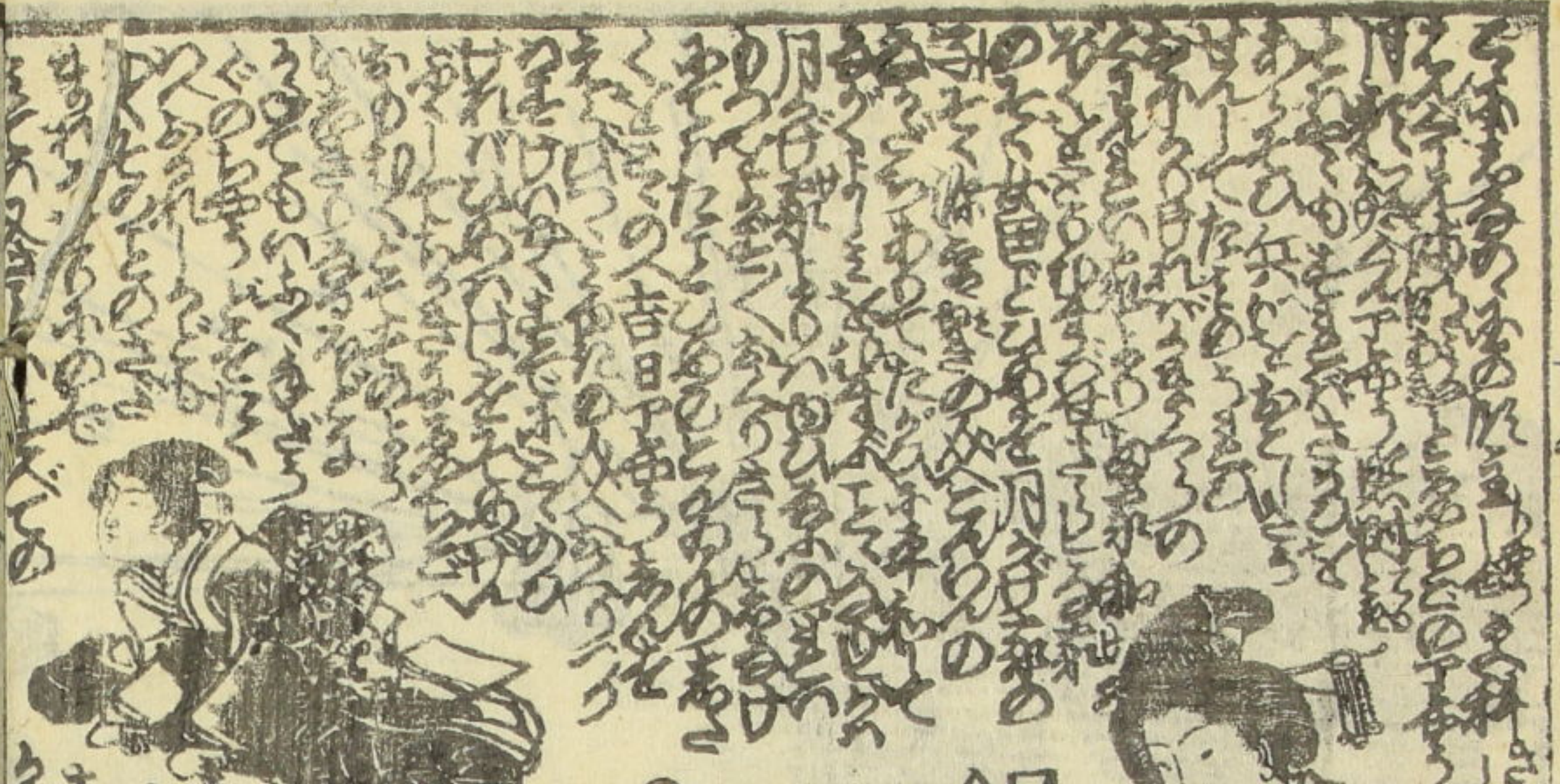
更科家の女月影家へ
嫁れの羽衣とあるはる圖



石の下へ

あつちの山を
あつちの山を

あつちの山を

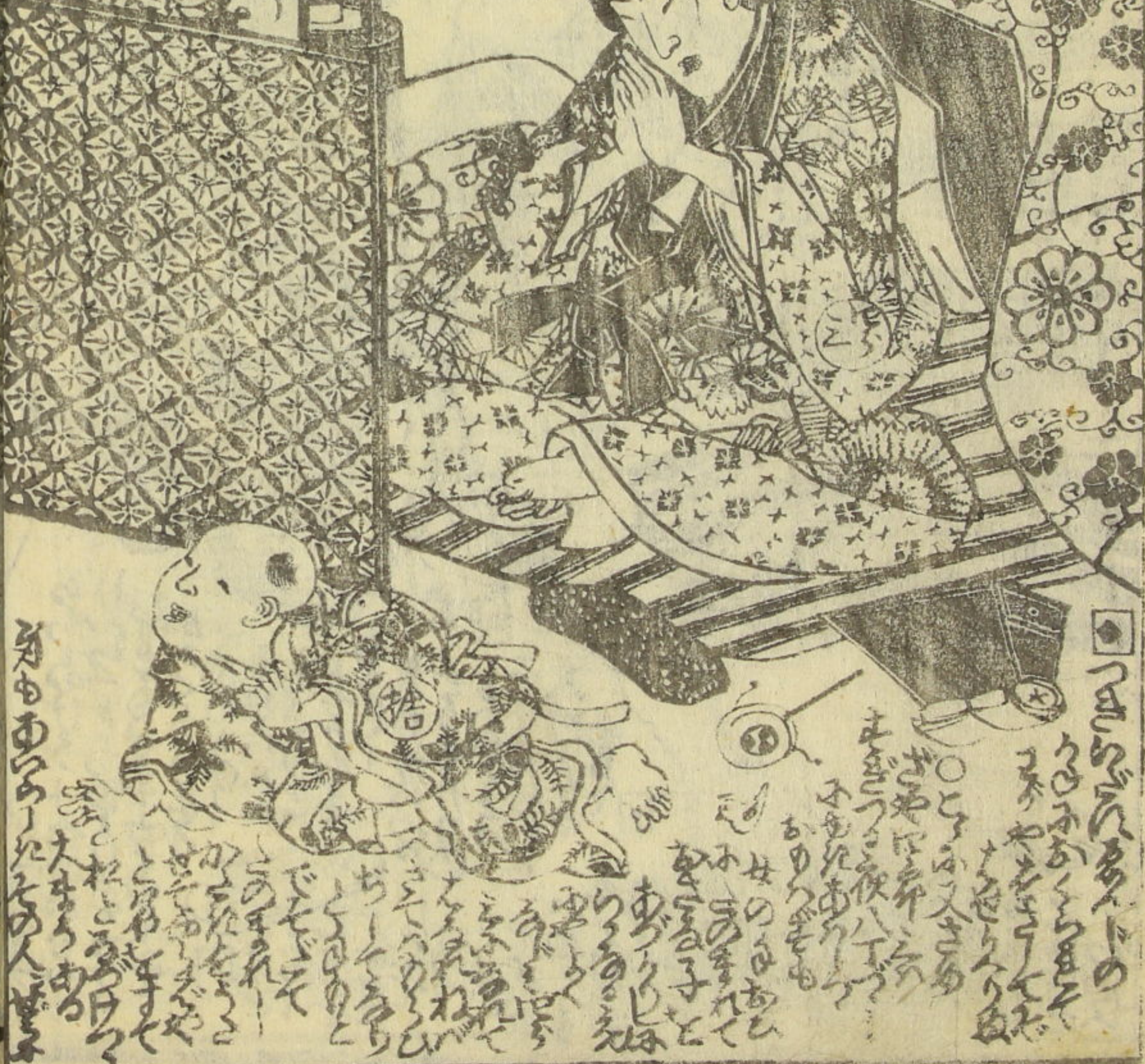


正月留め

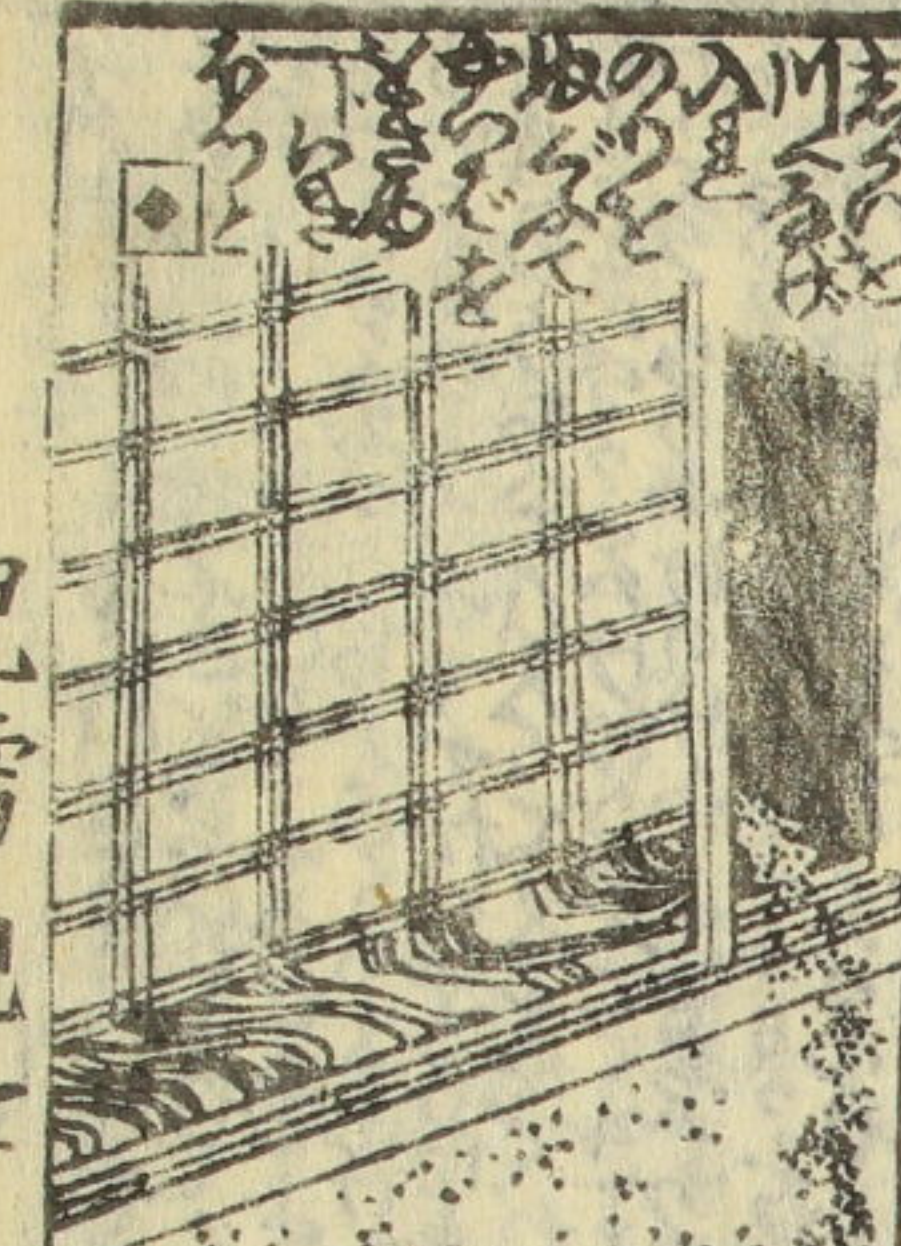
ついでに立ち上りて... 小あまのついでに... ことすれども... なるも... せむし... づも... せむし... せむし... せむし...

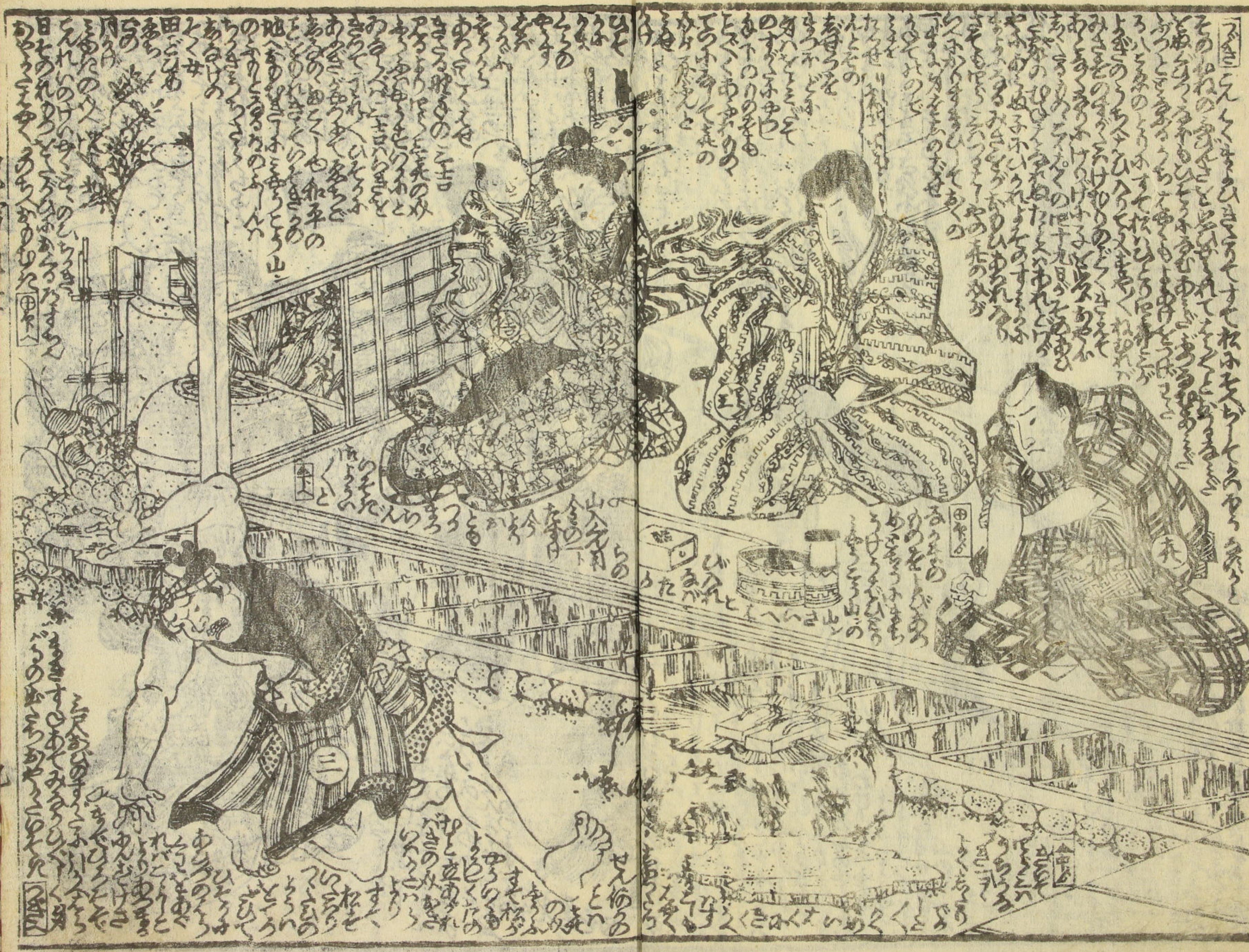
せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし...

入道... 川... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし...



ついでに... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし... せむし...





そのねねのふくさと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...

あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...

あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...
あつとさあつとあつと...

三

大世のしつれ
あぢあぢの
さうひら山
りてまけ
のさぢもあ
田とひあを
てくあらふ
つりて一世の
それと上た
くもくもく
その日く
らあああ
まうんてく

大世のしつれ
あぢあぢの
さうひら山
りてまけ
のさぢもあ
田とひあを
てくあらふ
つりて一世の
それと上た
くもくもく
その日く
らあああ
まうんてく

大世のしつれ
あぢあぢの
さうひら山
りてまけ
のさぢもあ
田とひあを
てくあらふ
つりて一世の
それと上た
くもくもく
その日く
らあああ
まうんてく



あぢあぢの
さうひら山
りてまけ
のさぢもあ
田とひあを
てくあらふ
つりて一世の
それと上た
くもくもく
その日く
らあああ
まうんてく

あぢあぢの
さうひら山
りてまけ
のさぢもあ
田とひあを
てくあらふ
つりて一世の
それと上た
くもくもく
その日く
らあああ
まうんてく

歌川豊國画○美圖笑顔作所



假名 一休草紙

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

初編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 二編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 三編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 四編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 五編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 六編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 七編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 八編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 九編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて
 十編 一休の清母の孝貞をいふことありて種師のいふことありて

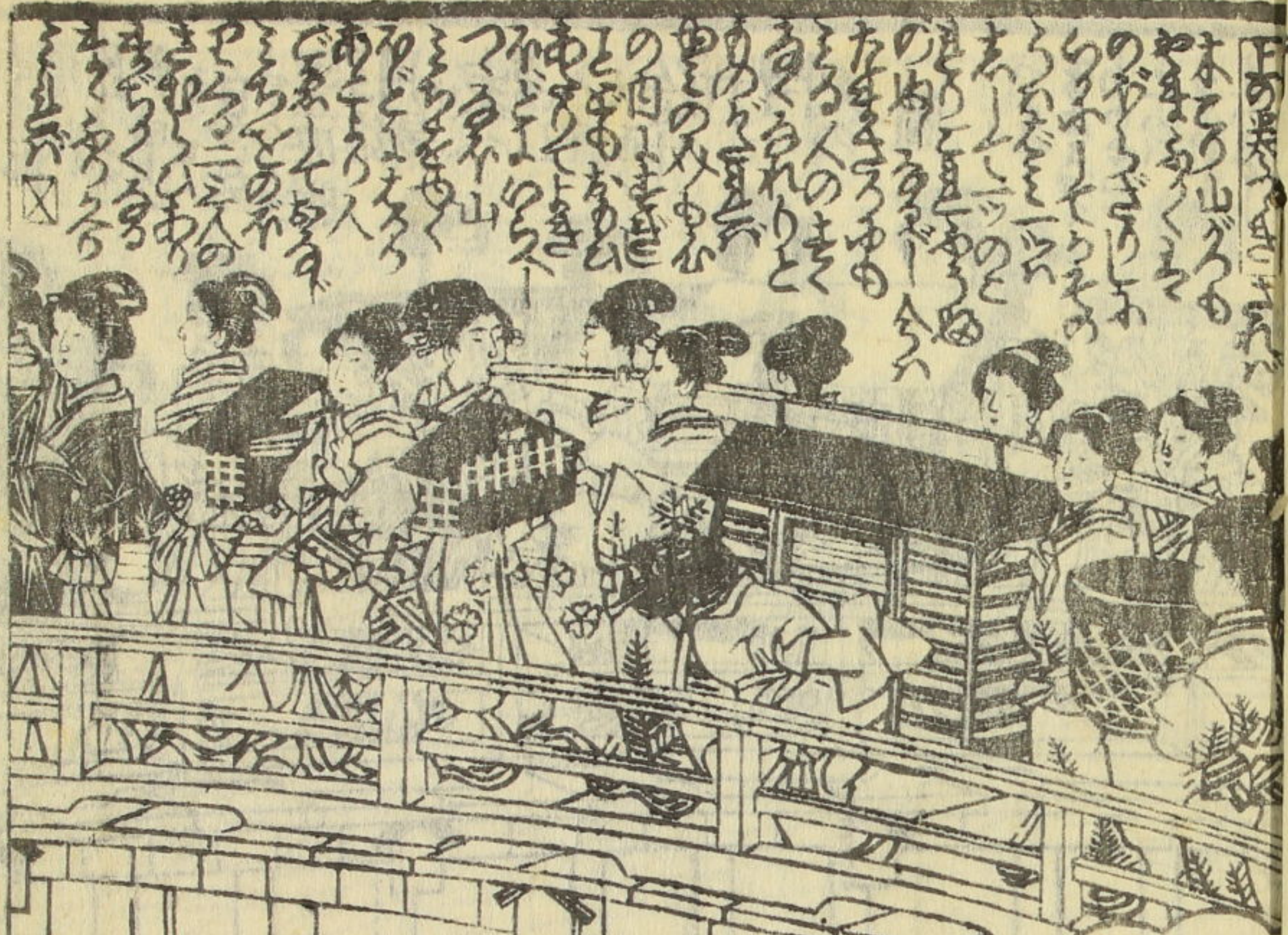
嘉永六年癸丑正月新彫

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

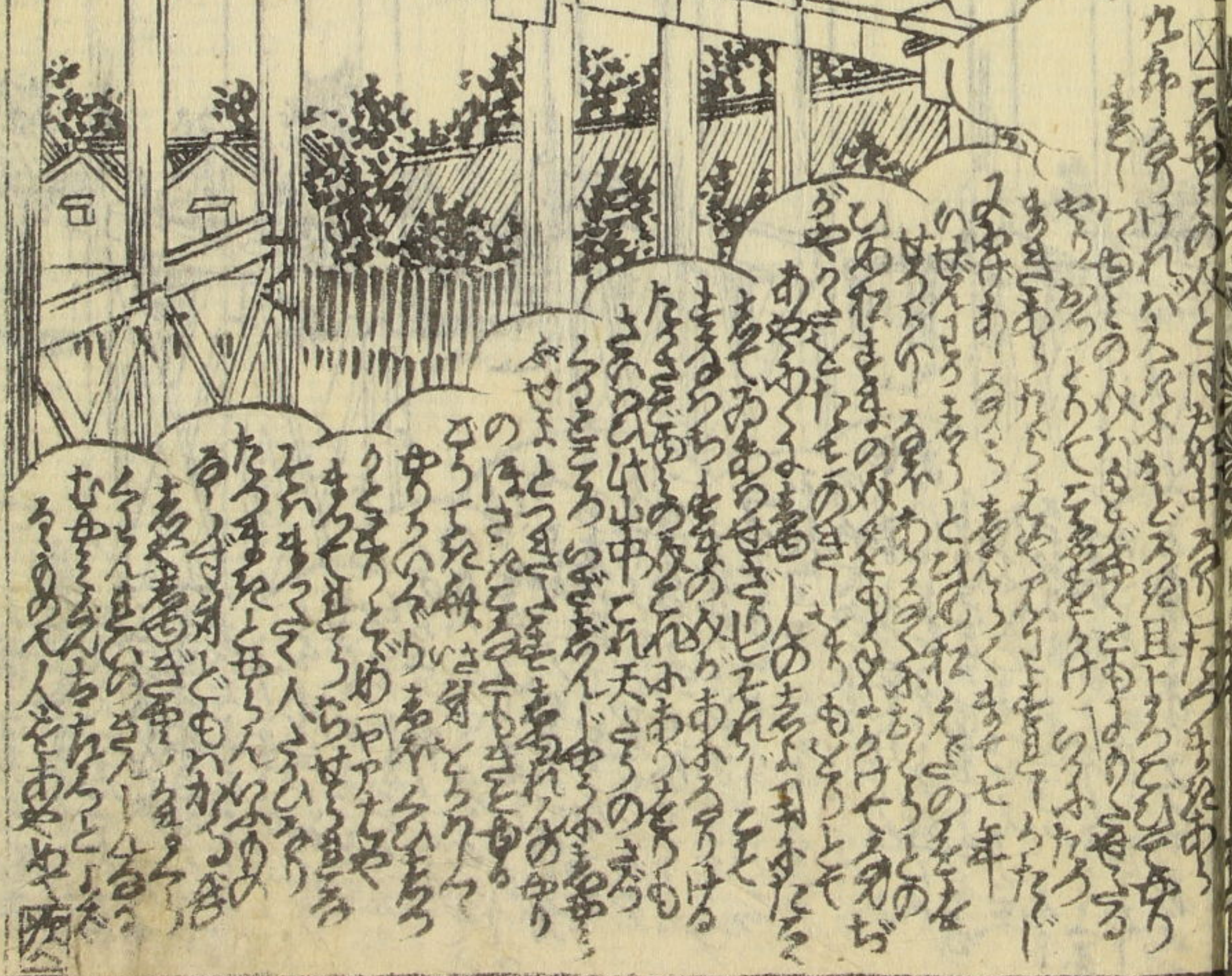


天衣作





七番目



十一



見當也

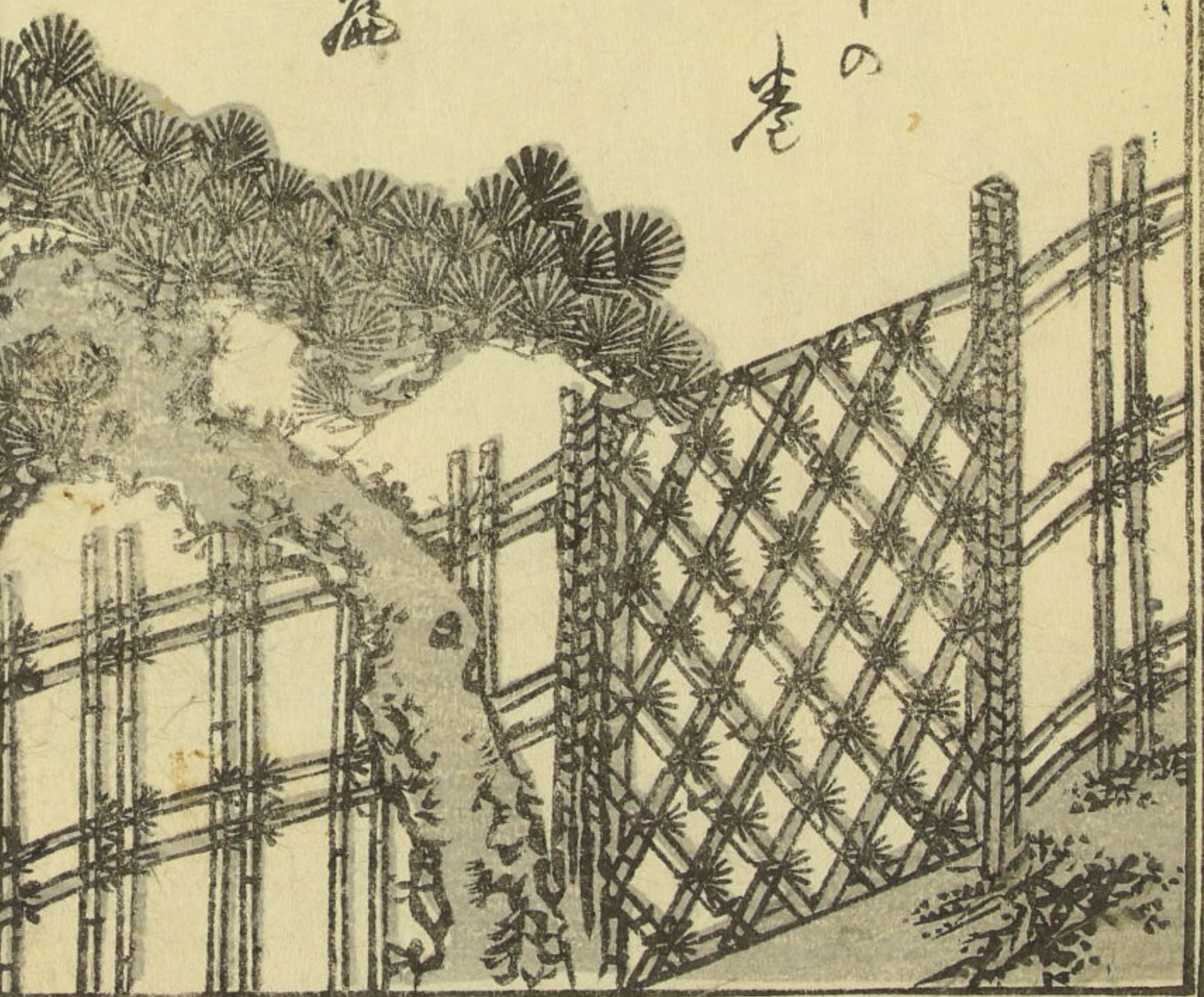
名家傑

源七郎

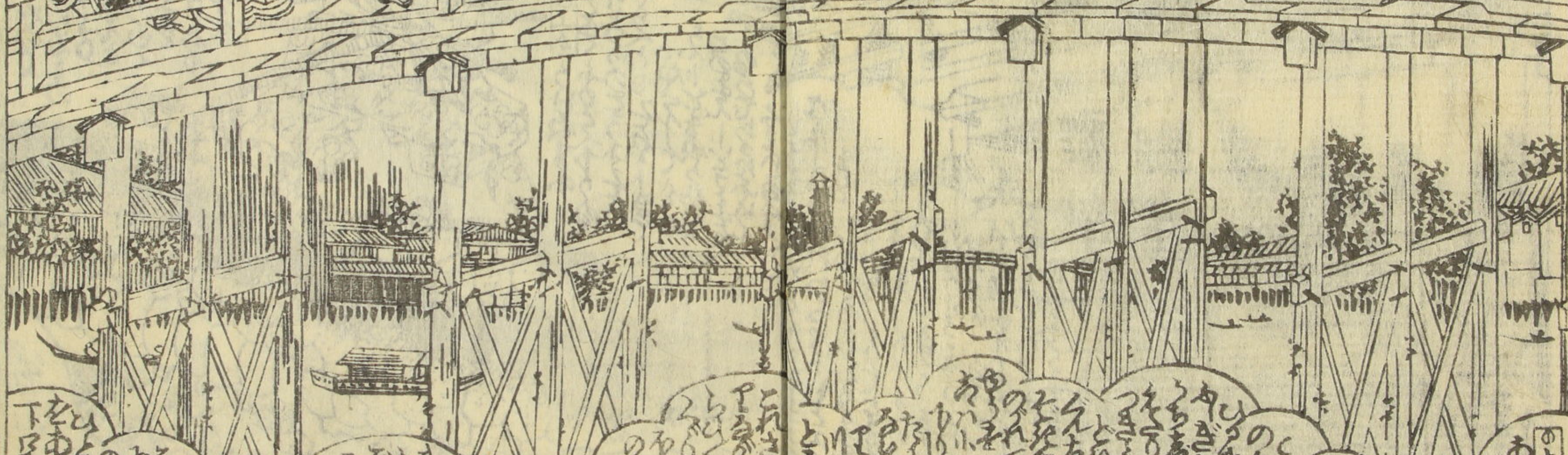
弘化四 丁未新板

泉市板

下の巻



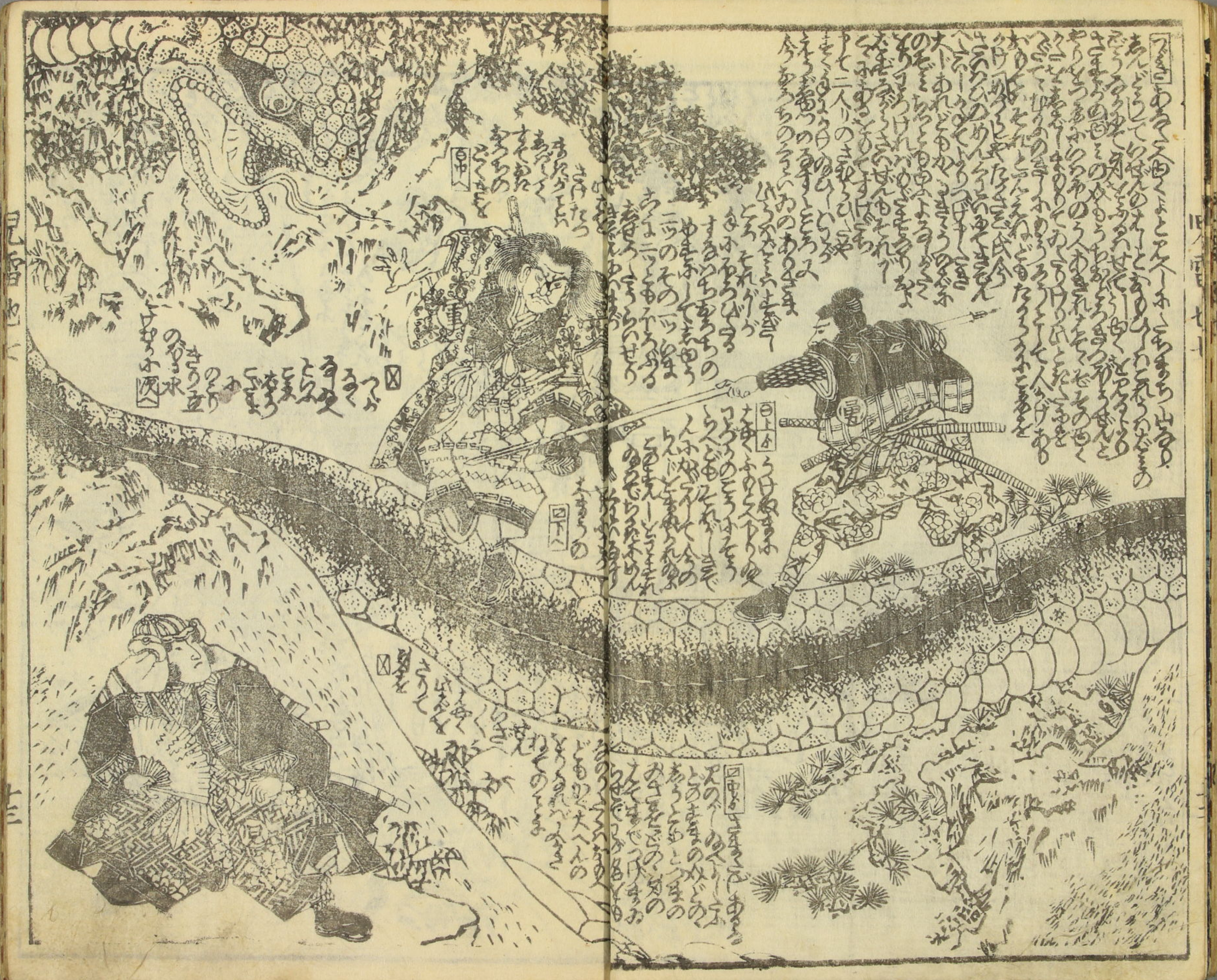
更科 判官の 息女 田母 月影 家へ 途入 行 列 圖



下京の山... 月影... 家へ... 途入... 行... 列... 圖... 月影... 家へ... 途入... 行... 列... 圖... 月影... 家へ... 途入... 行... 列... 圖...

田母

山



ついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 あんとしてついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 ついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 あんとしてついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 ついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 あんとしてついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 ついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 あんとしてついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる
 ついでわろくおとくをよととすべしおとくをあらわしんる

○中

○下

ののり
 のり
 のり
 のり
 のり
 のり

○上
 ののり
 のり
 のり
 のり
 のり

○中
 ののり
 のり
 のり
 のり
 のり



山崎闇夜
 〇七
 〇八
 〇九
 一〇
 一一
 一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八一
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九一
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇



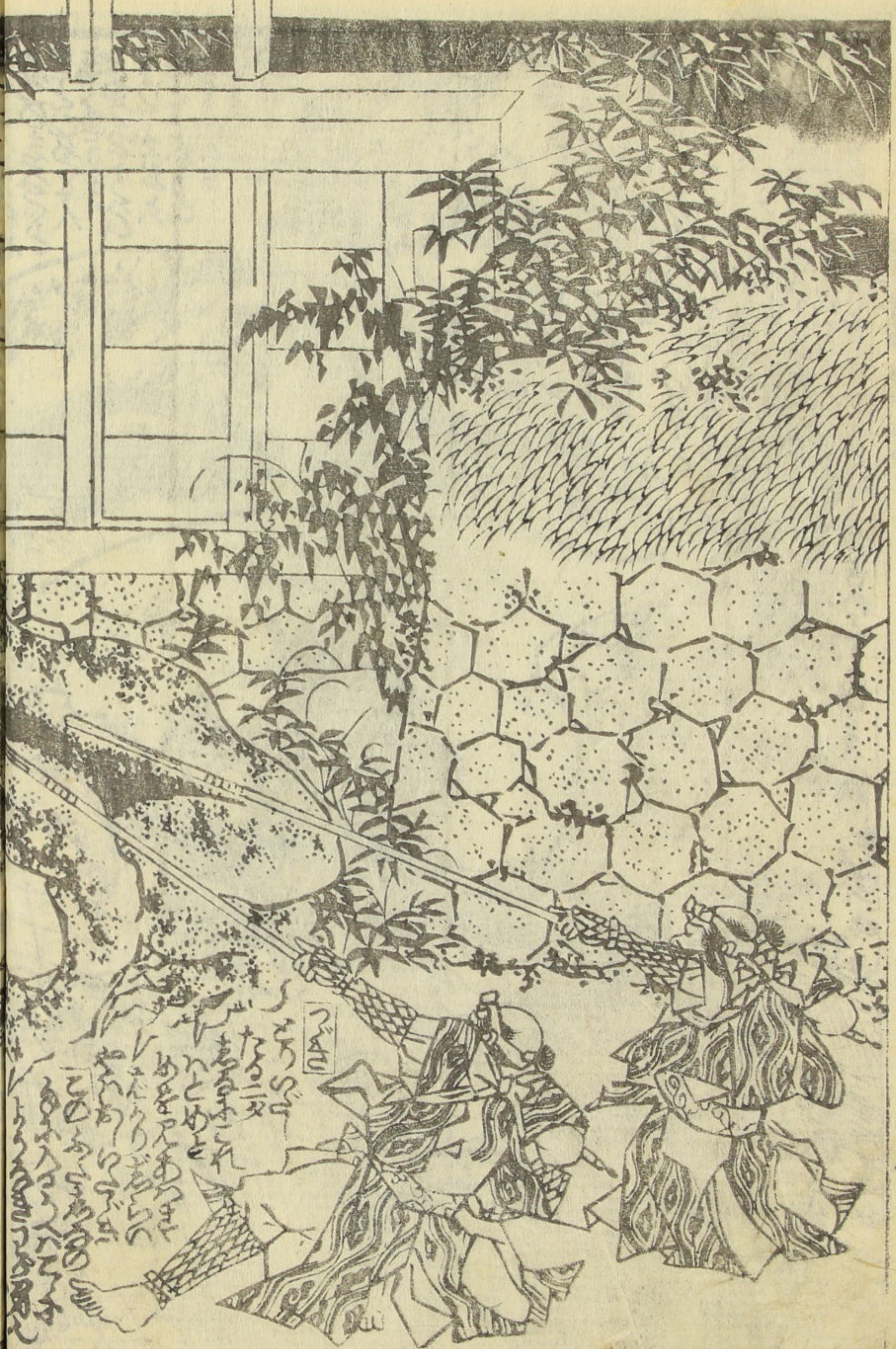
山崎闇夜
 〇七
 〇八
 〇九
 一〇
 一一
 一二
 一三
 一四
 一五
 一六
 一七
 一八
 一九
 二〇
 二一
 二二
 二三
 二四
 二五
 二六
 二七
 二八
 二九
 三〇
 三一
 三二
 三三
 三四
 三五
 三六
 三七
 三八
 三九
 四〇
 四一
 四二
 四三
 四四
 四五
 四六
 四七
 四八
 四九
 五〇
 五一
 五二
 五三
 五四
 五五
 五六
 五七
 五八
 五九
 六〇
 六一
 六二
 六三
 六四
 六五
 六六
 六七
 六八
 六九
 七〇
 七一
 七二
 七三
 七四
 七五
 七六
 七七
 七八
 七九
 八〇
 八一
 八二
 八三
 八四
 八五
 八六
 八七
 八八
 八九
 九〇
 九一
 九二
 九三
 九四
 九五
 九六
 九七
 九八
 九九
 一〇〇



Vertical Japanese text on the left side of the illustration, likely a chapter title or descriptive text.

田代 山 11

Vertical Japanese text located below the man with the staff, possibly a dialogue or commentary.



Vertical Japanese text located below the figures in the garden, possibly a dialogue or commentary.

一陽齋曲豆國画○美圖笑顏作



兒雷也豪傑譚

廿一篇 柳下亭種員作
廿二篇 一雄齋國輝画
廿三篇

今業平背面影

六篇 七篇

祥瑞白菊物語

五篇 六篇

新編金瓶梅全輯

自初編 至十編 曲亭馬琴翁作
大尾 一陽齋豐國画

書肆甘泉堂芝神明前和泉屋市兵衛版

嘉永六年癸丑孟陬發市標目

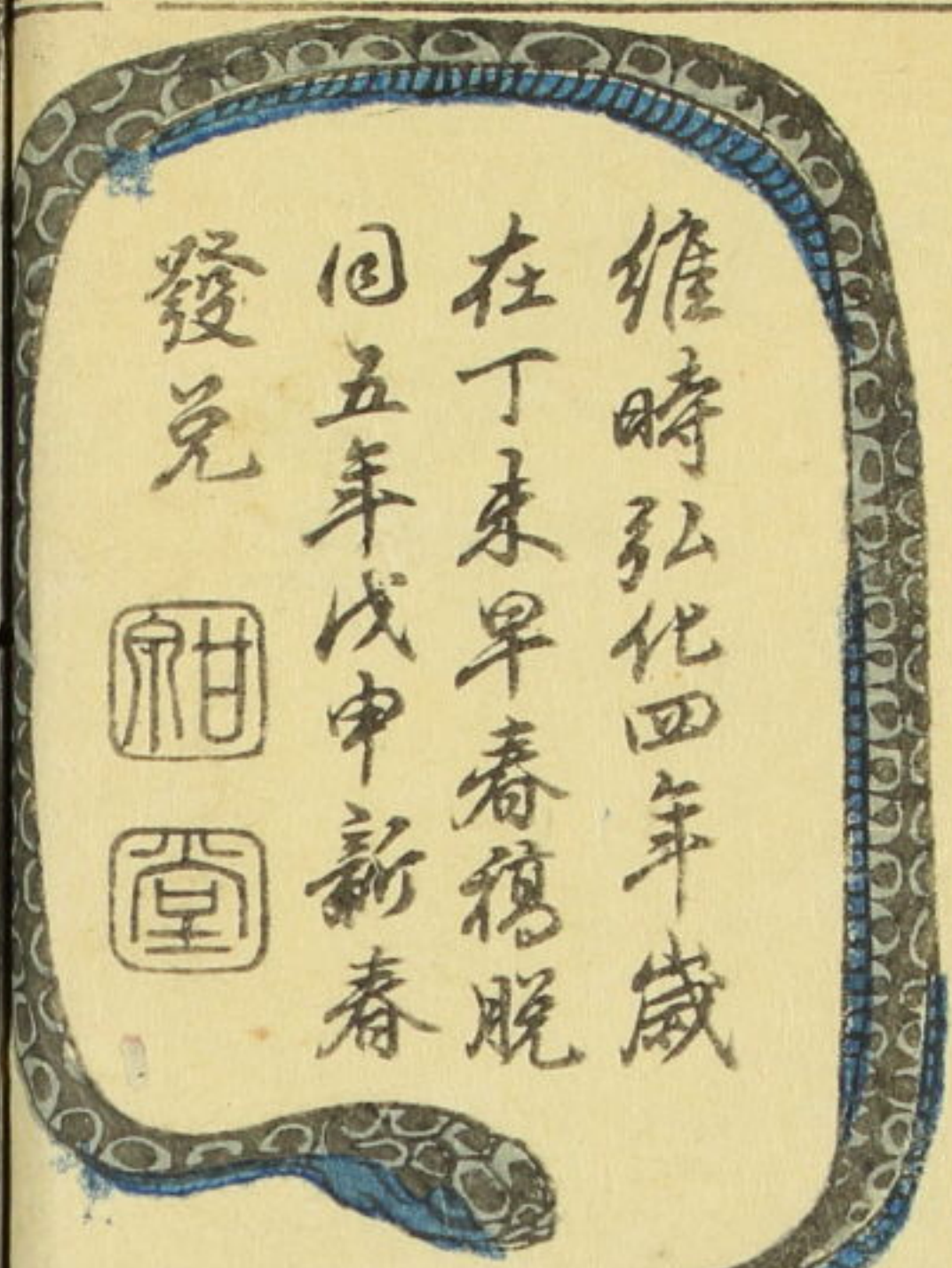


下



蝦蟆妖術
大蛇怪異
兒雷也豪傑譚
第八輯上

美園垣笑顏作
一陽齋畫國画



甘泉堂
和泉屋市吉板

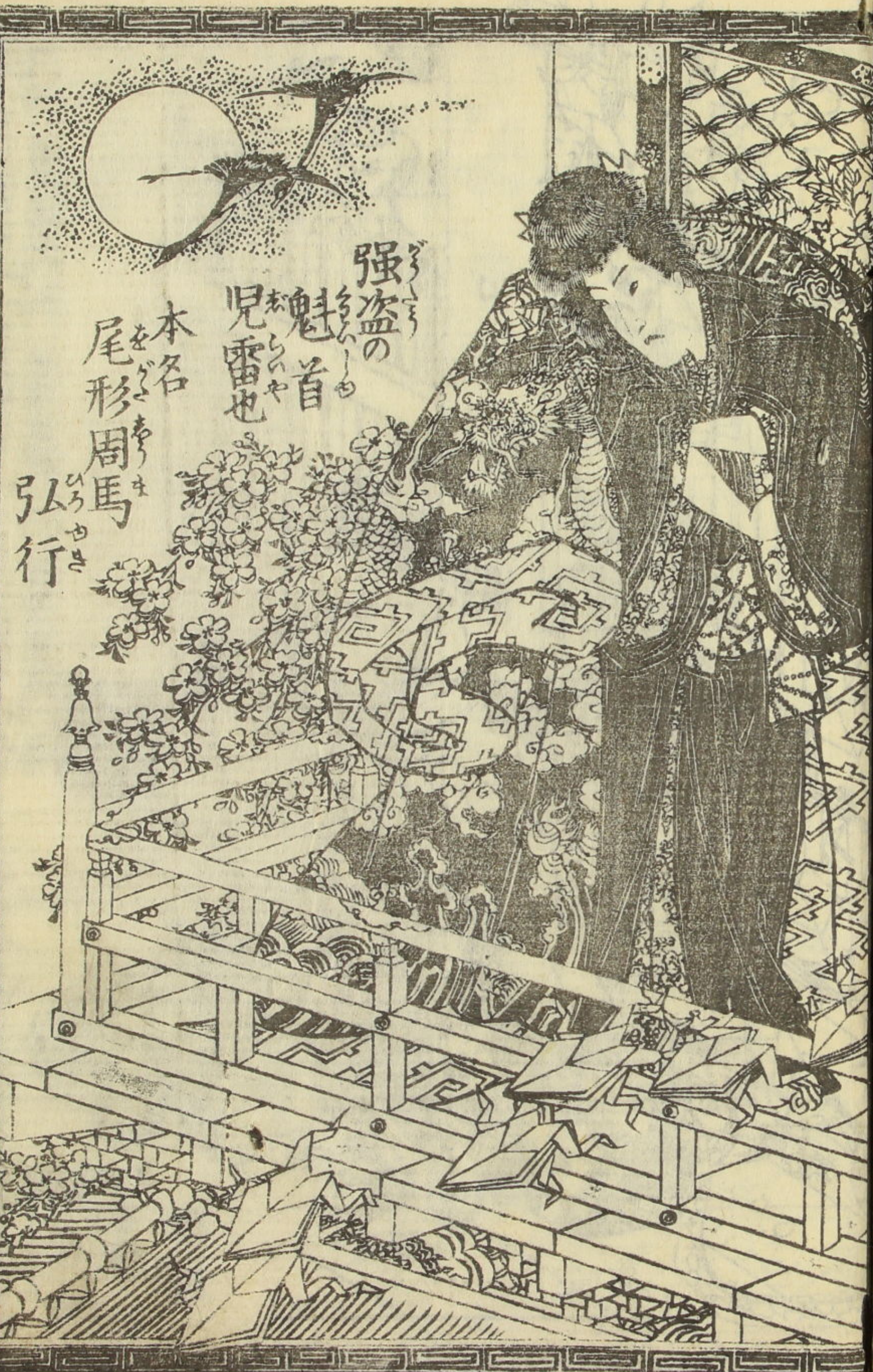


維時弘化四年歲
在丁未早春舊脫
回五年戊申新春
發兌

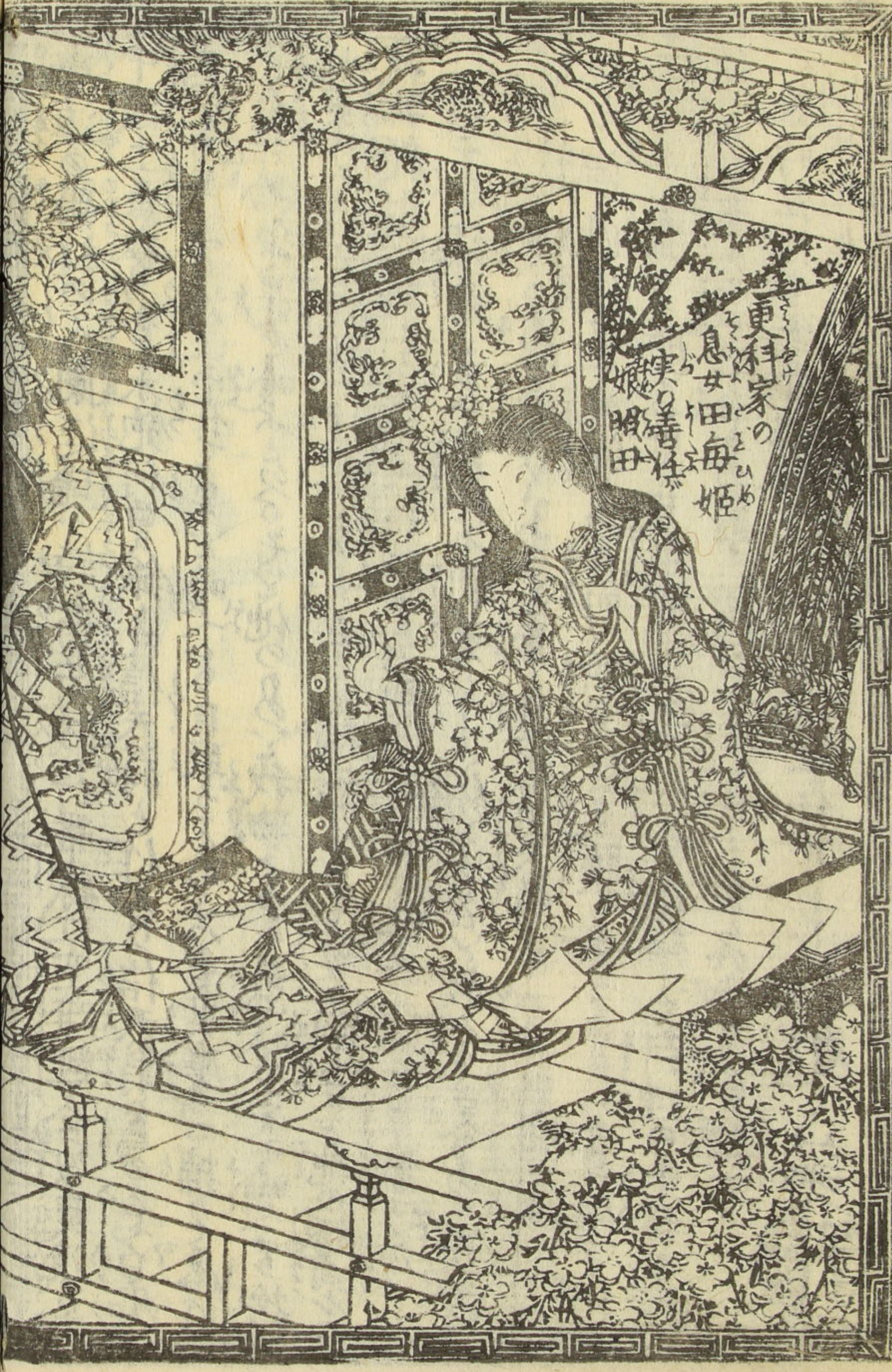
唐漬の楊材の人蘭廷瑞詩小荷錢符帶綠江空啞鯉含汝魚淺草
中波上魚鷹負未飽何曾餓此信天翁鳥の作鳥の名白痴
鳥とも号う海上小在て臭と喰へも自取るこあさつを奥雁鳥の捕りて落
これあれ拾ひて是を喰ふとらるそを他のめと我物とるを愚昧の支ふ喻へち抑
此策子の作者没故の送稿あり夫を補綴して年毎小嗣者ど他の趣向を
我物顔小添削するも信天翁拙鳥海崎の所あるれ故人の作の古草冊子に
外題之更練像と更て其依小新著うく紛ら名と假入るまもあり蠅頭
の微利と食り名と售るるを業る是をも信天翁と云ふら孰屑の無りれ
故を温て洗濯せ唯漫れ目前の新案從來腹も脊もるなれば書遣て利
も兄上日く賣る勝と節と甘泉堂の仕ひの荷出塩梅と料理の手盛も八
編目見女輩の山口史合らあらぬ知れ給とも今年も替る御具負願ふと
維時弘化丁未春稿脱
同戊申年新春發兌
一筆茶井主人戲誌



尾形周馬

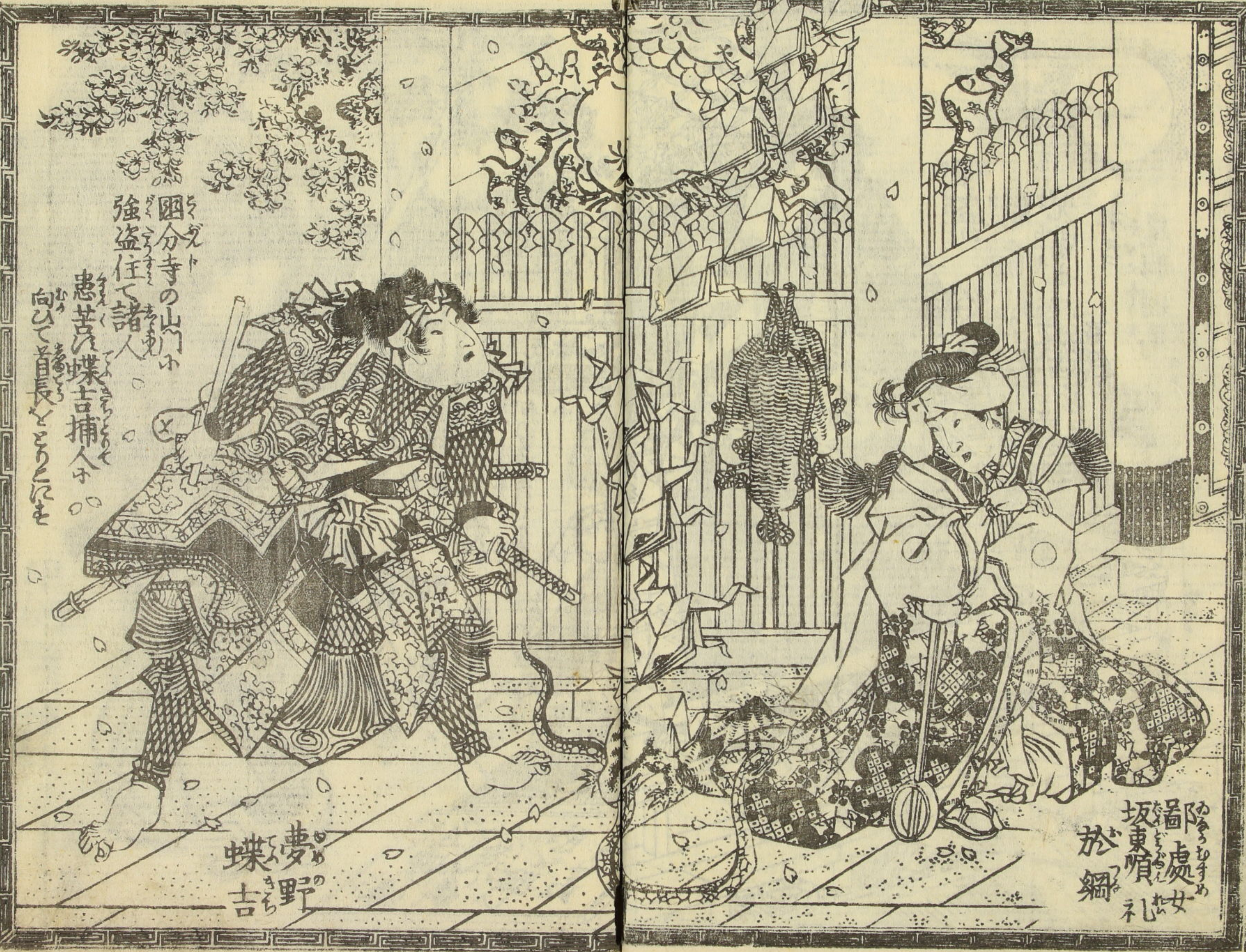


強盗の魁首
尾形周馬
本名
尾形周馬
弘行



更科家の
息女
田海姫
娘
善任
田

尾形也



困分寺の山門
 強盗住て諸人
 患苦の蝶吉捕人
 向ひて首長ととりこま

蝶吉
 夢野

坂東
 於綱
 禮女



録倉の長谷の観音
内境帳用
大坂下

偶々
夏巻中
小詳

此浪人の
路頭不在
他の合力
何の益有
てり爰

永々の浪人者
往來の人
願ひて露命

高砂勇現
之助善任

更科の家
忠臣

浪人
無名士

月影家の奥女中
関屋



夏之夜
空中を
高くとぶ
人魂とよめるもの
夏の夜に
空をひらきまわす

持丸の男児



富貴太郎

抱朴子と云書の蟾除千歳されが頭上の角ありの腹の下丹書ありて是と肉芝と
 云の能山精を喰ふ山神の是を用ふる霧と起一雨を祈る兵を辟自縛を解とまの
 世あらぬ蝦蟇の妖術是也唐土の書より蝦蟇の身と変する人の夏粗見と云
 蟾蜍と喰ふと人の首を喰ふ故に蝦蟇の妖術也敵を覚雷也と豪傑と号する故有
 蛇蛙と喰ふと人の首を喰ふ故に蝦蟇の妖術也敵を覚雷也と豪傑と号する故有

助てしる新あるもあつてそのつとてか
 の物のもんやうにあつたてつとてか
 かければそのつとてか
 上はつてそのつとてか
 月つとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか
 のつとてそのつとてか



山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々

山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々



山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々

山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々

山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々



山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々
 山門の
 多々

小倉百人一首

極道のきりぎりす
小倉百人一首

新編金瓶梅

十編揃
馬琴作
豊國画

小女郎姝怨麻環

三編讀切
馬琴作
國芳画

一雄齋國輝画
兒雷也豪傑双六

芝神明前
甘泉堂版

右双六の巻紙のまゝにて
初之入と廿餘連のうら
画のまゝのよりきりぎり
えりて更々々仕立ぬる
其本ノ巻紙よみ

兒雷也豪傑譚

廿四編 柳下亭種員作
廿五編
廿六編 一雄齋國輝画

豊國画

笑顔作



この巻紙のまゝのきりぎりすの
本とてうらまゐるのまゝにけいんそのまゝの
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
平ちりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも

この巻紙のまゝのきりぎりすの
本とてうらまゐるのまゝにけいんそのまゝの
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
平ちりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも
おかげゆゑのまゝに上り下り様はしるも
つまのりゆゑのまゝに上り下り様はしるも

典國画

兒雷也豪
傑譚
八編





此の物語は...
 昔の事...
 江戸の町...
 名前の...
 花...
 曲...

花...
 曲...
 中...
 花...
 曲...



火雷也

名子傑

福

弘化五
 戊申
 新坂
 八編
 下の巻

門人 岡亭

甘
 泉
 特





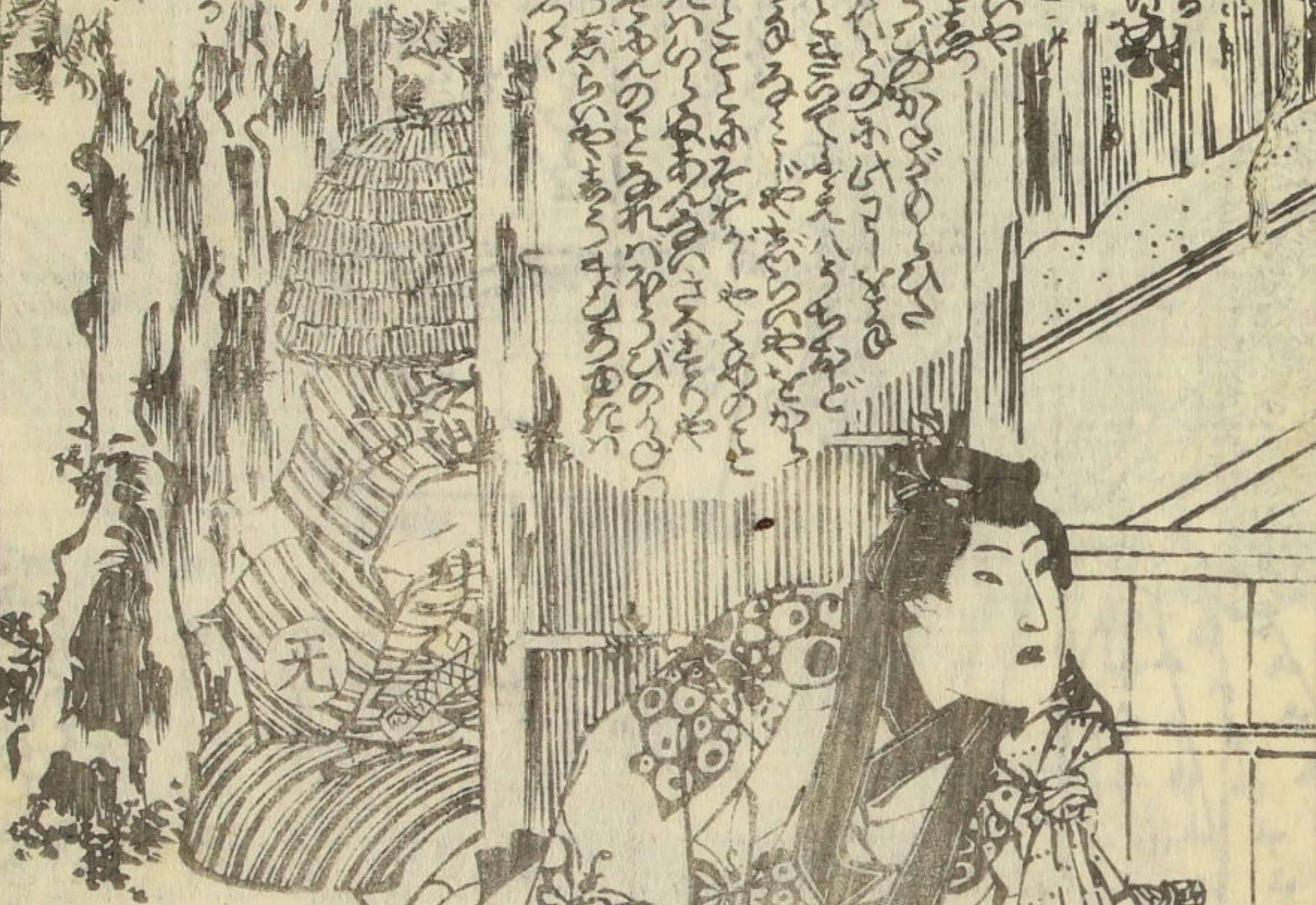
五十四

十一

五十四

十一

Handwritten text in the top left corner of the left page, written vertically in Japanese.



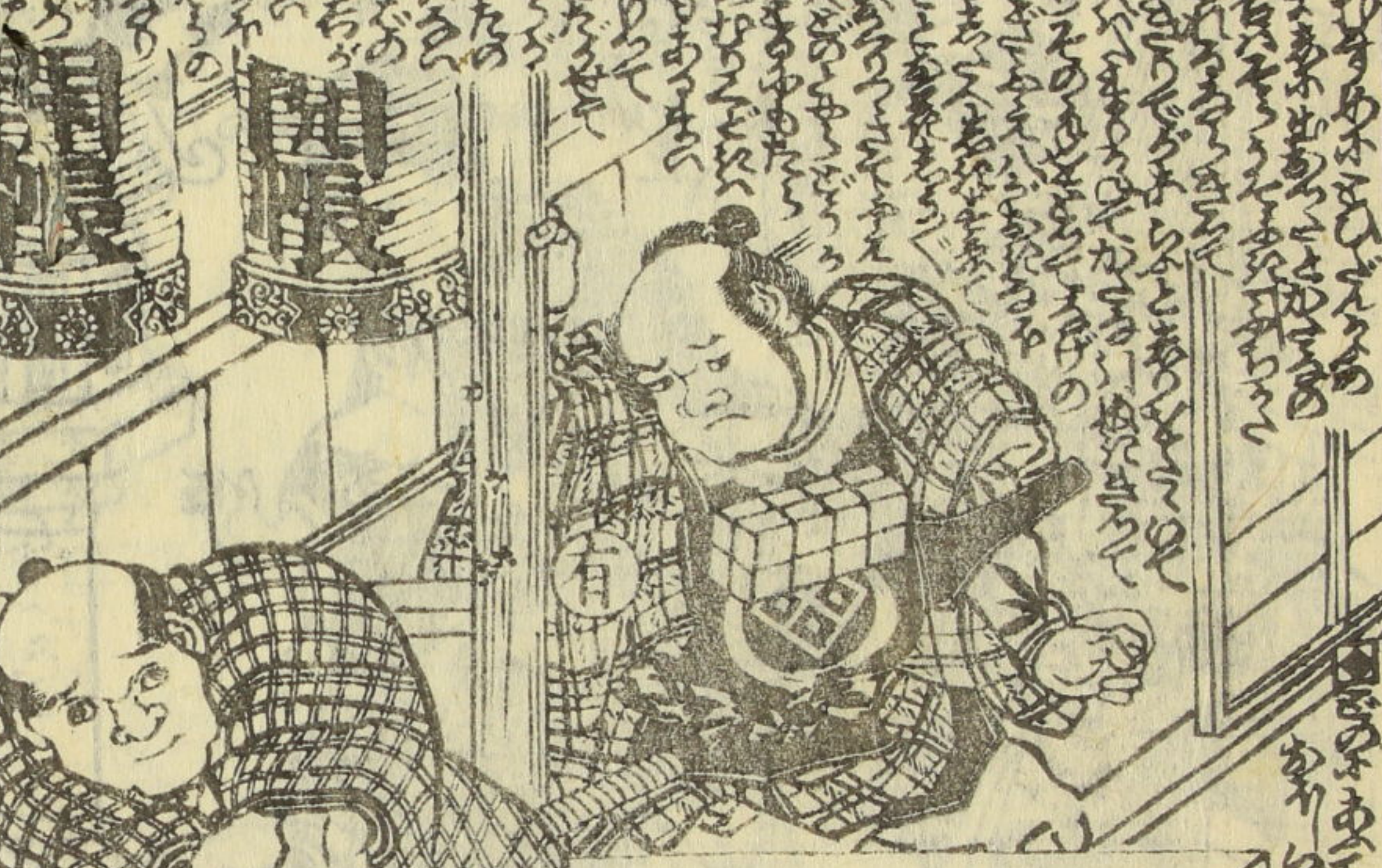
Handwritten text in the bottom left corner of the left page, written vertically in Japanese.

四十一

十一

Handwritten text at the bottom left corner of the left page.

Handwritten text in the top right corner of the right page, written vertically in Japanese.



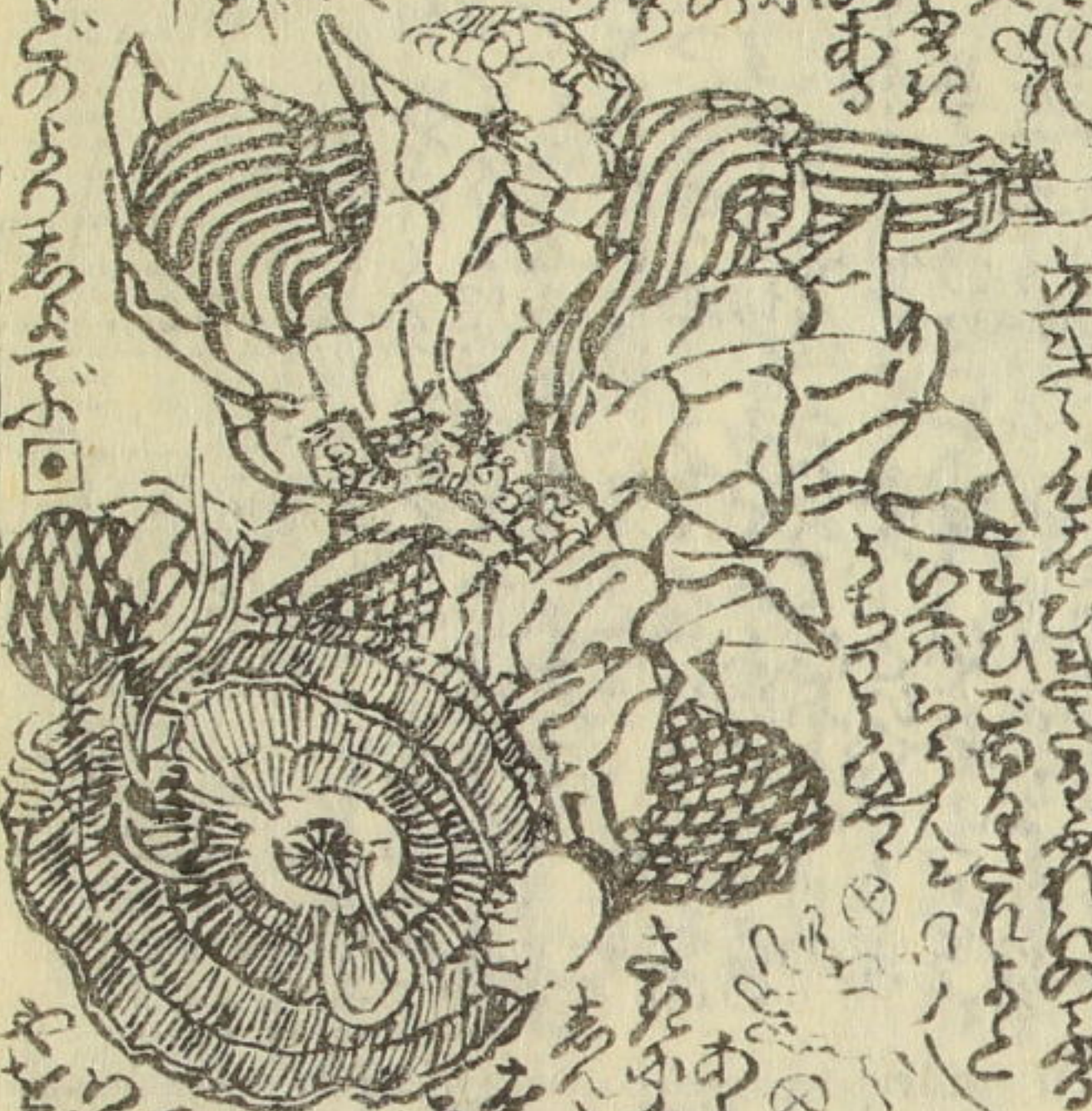
Handwritten text in the bottom right corner of the right page, written vertically in Japanese.

四十二

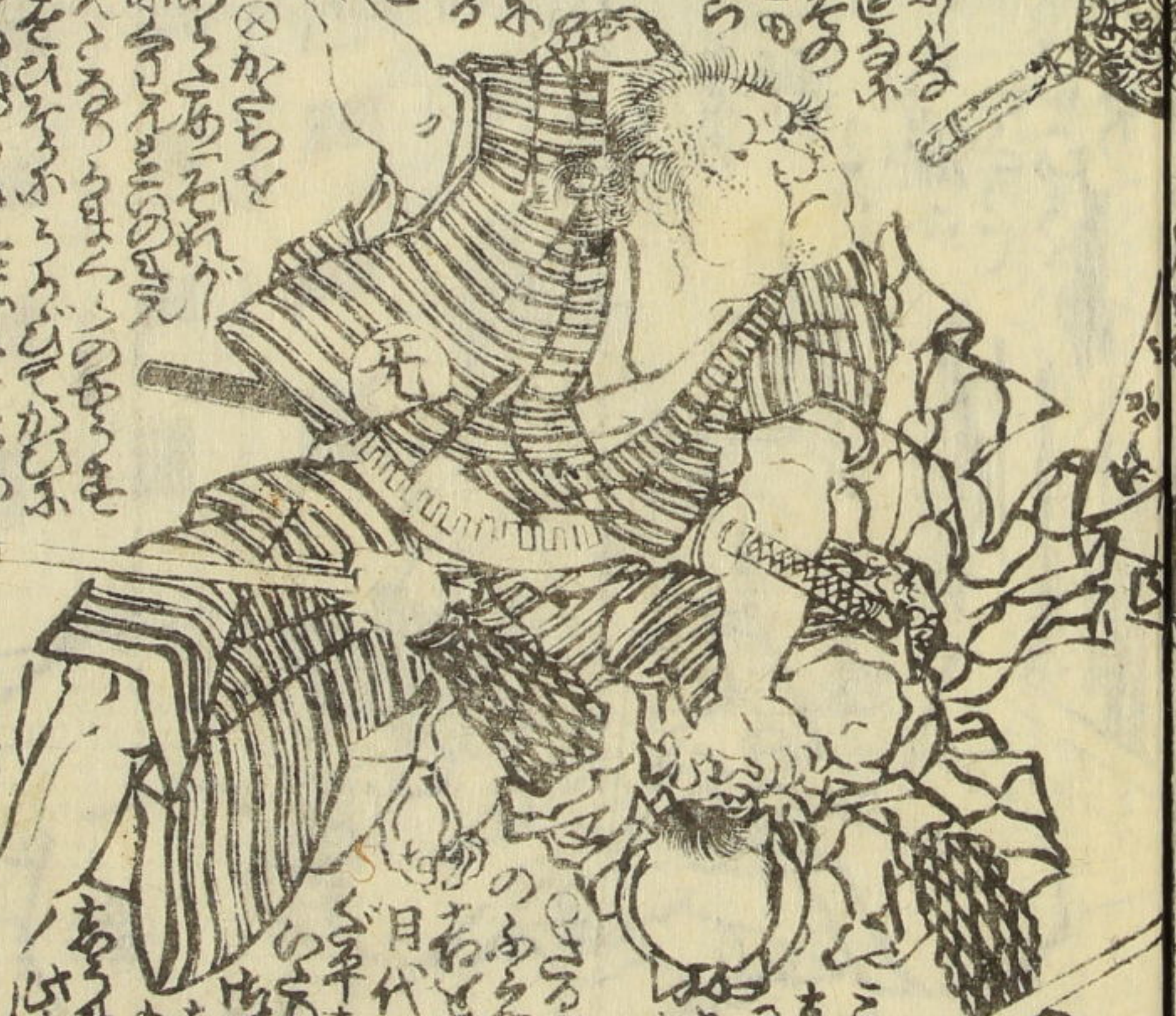
十二

Handwritten text at the bottom right corner of the right page.

Handwritten text in a cursive style, likely a diary or journal entry, covering the top and left portions of the page. The text is dense and fills the upper half of the page.

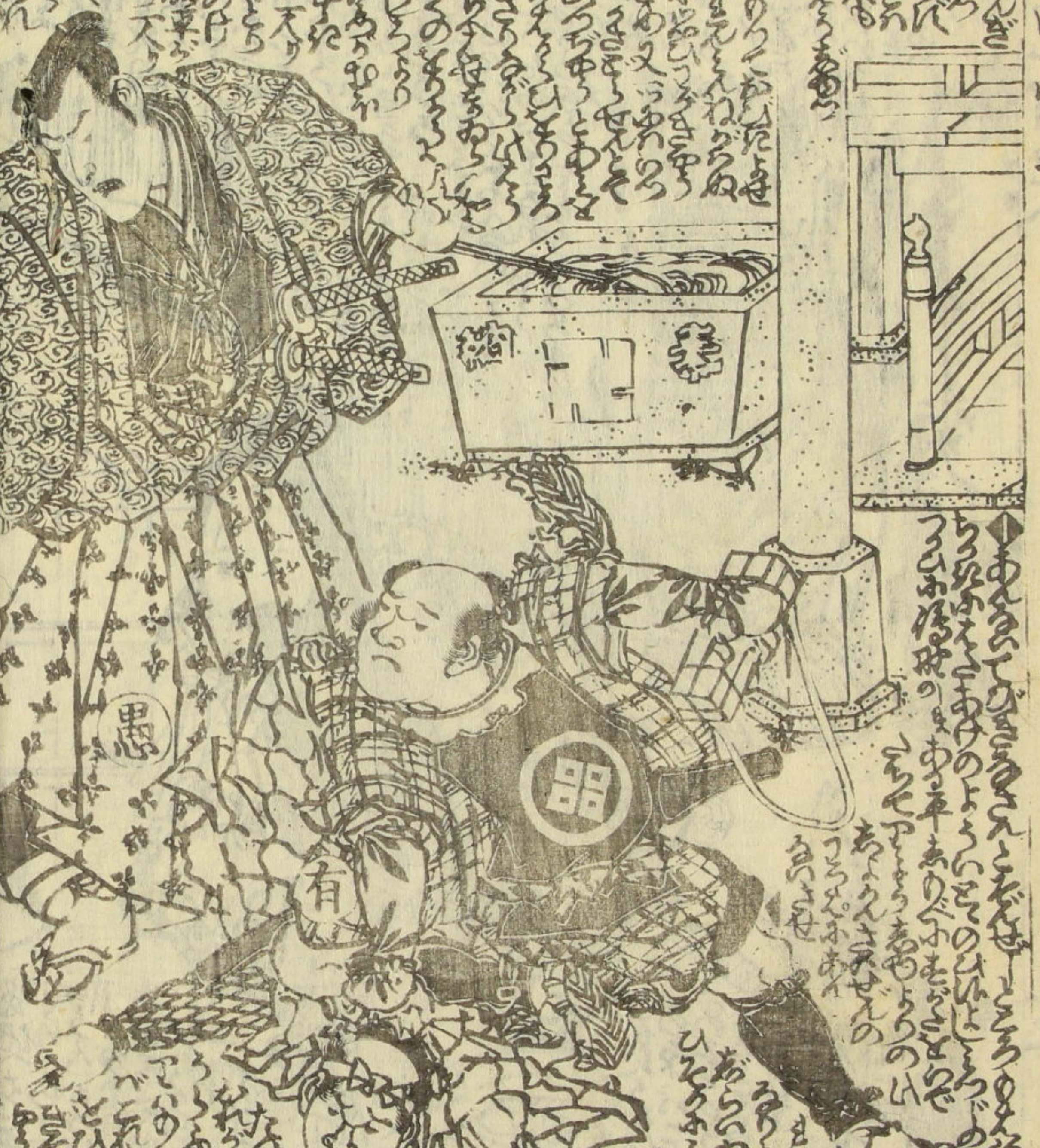


Small handwritten notes or annotations located between the two illustrations on the left page.



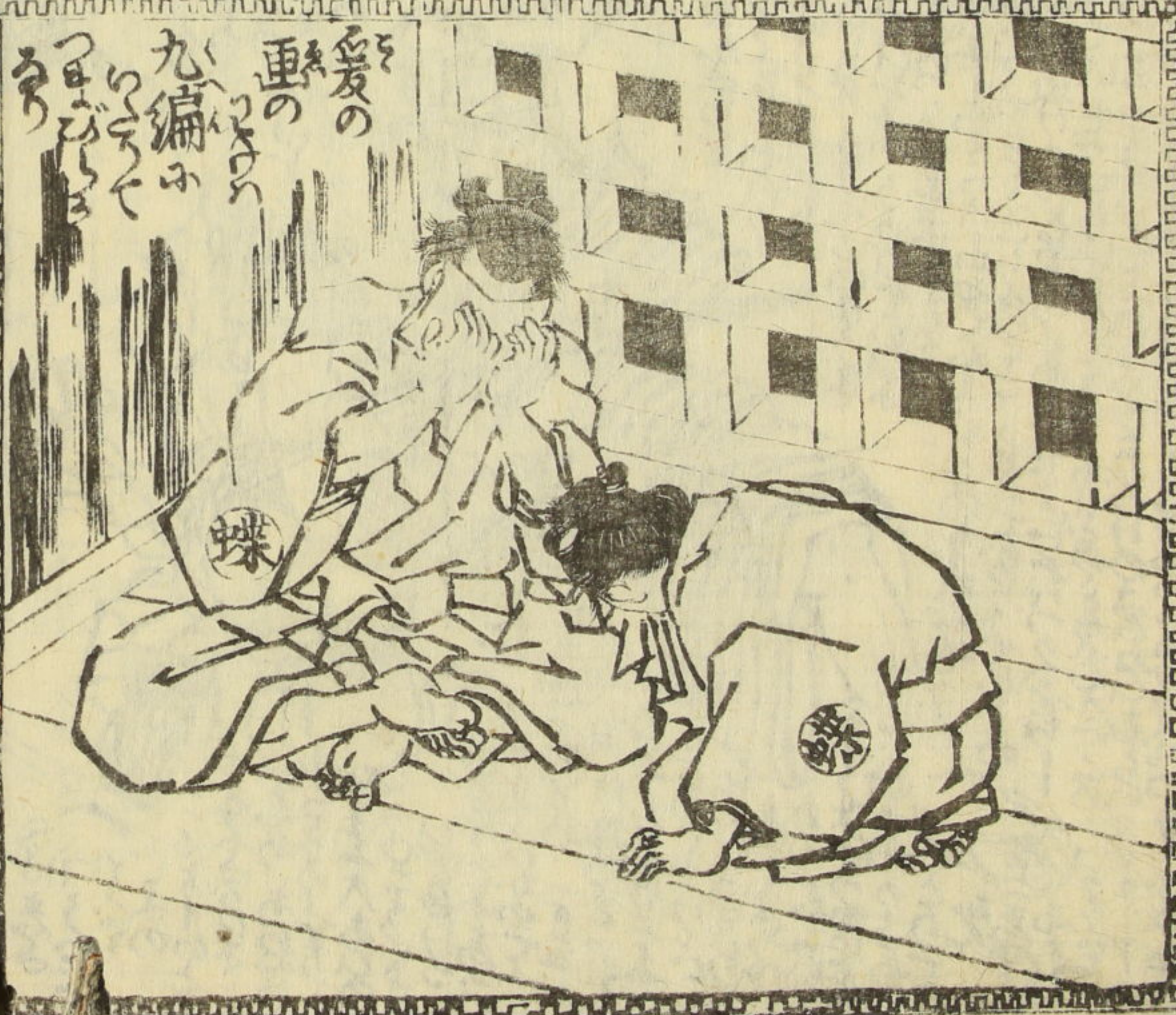
Handwritten text at the bottom of the left page, continuing the narrative or providing additional details.

Handwritten text in a cursive style, covering the top and right portions of the page. The text is dense and fills the upper half of the page.

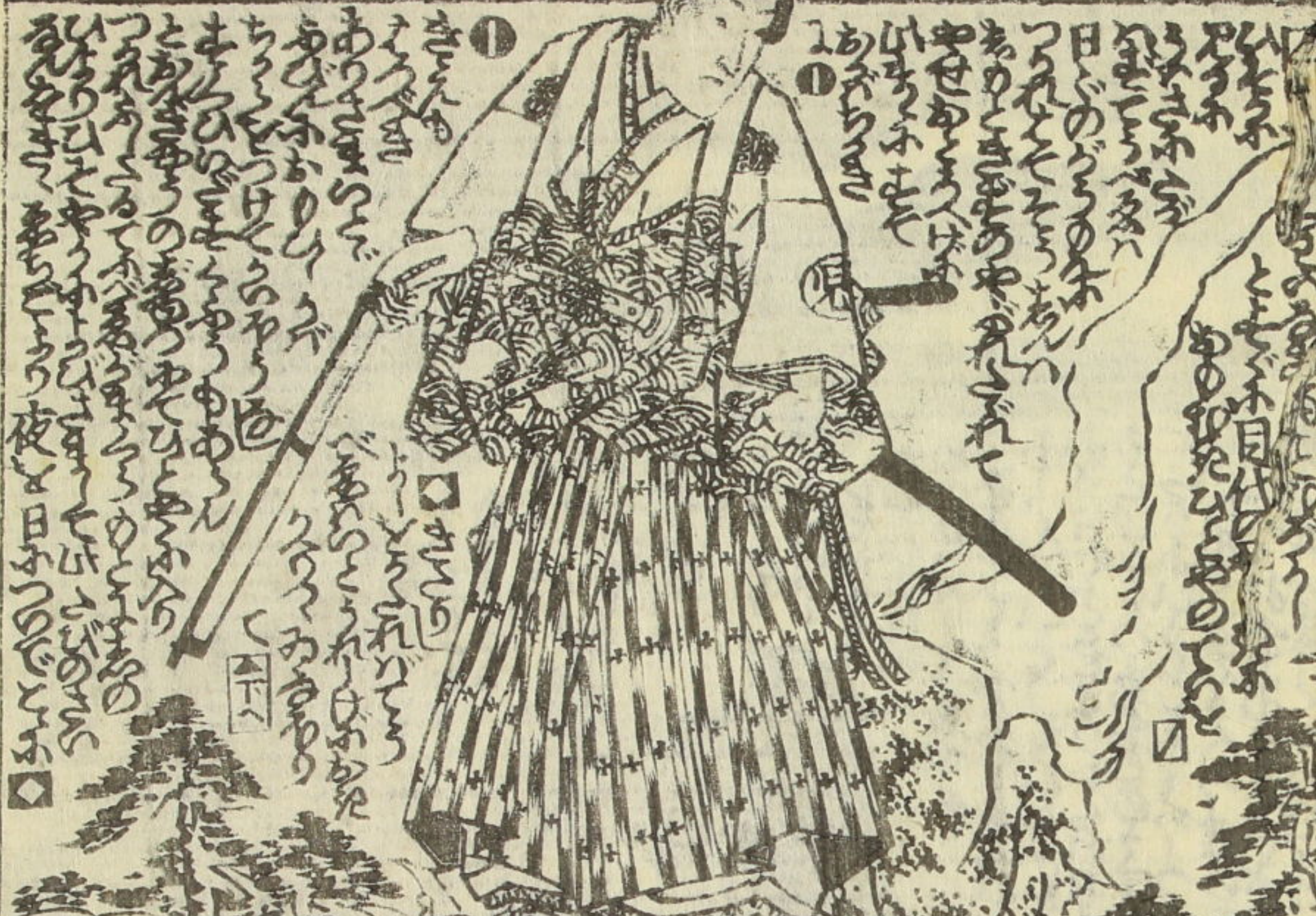


Handwritten text at the bottom of the right page, continuing the narrative or providing additional details.

Handwritten text in the upper right section of the right page, written in vertical columns.



愛の
馬の
九編の
りびり
る



Handwritten text in the upper left section of the left page, written in vertical columns.

Handwritten text in the lower section of the left page, written in vertical columns.

陽齋豊國画 ○ 美圖垣笑顔作



小栗十騎 照天松操月鹿毛

初編 春風亭柳枝作
二編 一雄齋國輝畫

風俗法間獄

初編二編

種久作
種員校合
國貞画

假名及古
一休草紙

五編六編七編 出板

黄金水大盡盃

為永春水作
一壽齋國貞画

初へん
二へん
三編

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

地本草紙問屋 芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板



見雷也

嘉傑禪

八偏

美園垣笑顏作

陽齋學國畫

其泉書畫

其泉書



其泉書

